

普及活動情勢報告（令和元年 7 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

第 1 回農業改良普及推進協議会を開催～管内の農業を取り巻く課題の共有・検討～



6 月 25 日、農家代表や関係機関から 14 名の委員に出席いただき、普及推進協議会を開催しました。

意見交換では、「集出荷場の労働力不足は規格の変更で対応できる部分もある。県内全体で取り組まないといけない課題」、「新規就農者を受け入れるために、指導農業士を増やすことも大切だが、人材育成のためには指導者の質の向上や育成も重要。また、指導農業士の受け入れ中の悩みも聞いて欲しい」といった意見が出されました。

農業改良普及課では、関係機関と連携し、これらの課題をはじめ今後も産地が継続していけるよう各担当が必要に応じた支援をしていきます。

やっこねぎ部会栽培講習会（夕涼み会）を開催



JA 高知県香美地区やっこねぎ部会は、7 月 4 日に栽培講習会を開催し生産者 144 名が参加しました。

JA は労働力不足対策のための雇用労力アンケート調査を実施し、農業改良普及課は夏期安定生産技術として機能性被覆資材の試験報告や灌水方法の説明を行いました。

参加者からは、発芽時期の灌水方法や灌水資材等について意見や質問が出されました。また講習会終了後は、西村部会長より産地のますますの発展にむけた挨拶があり夕涼み会が盛大に行われました。

今後、農業改良普及課では、周年安定生産、出荷量維持のために、技術・組織面の強化に向けて支援していきます。

フルーツトマトにおける尻腐れ果対策の実証とマニュアル策定



JA 高知県香美地区園芸部フルーツトマト部会では、防根透水シートを利用して高糖度トマトを生産していますが、かん水量を制限するため尻腐れ果の発生が問題となっています。

農業改良普及課は、部会とともに「カルシウム剤の果房散布技術」の現地実証を行ってきました。その結果、尻腐れ果の発生軽減効果が高く、実証技術の方法やポイント等を取りまとめたマニュアルを作成しました。

マニュアルについては、来月開催予定の反省会で生産者に配布・説明するとともに、次作では展示ほを設置し、尻腐れ果の発生軽減による生産拡大を図ります。

夏場のハウス内作業の負担軽減！「空調服」を利用しよう！



香南市の施設カンキツ栽培では、夏場にハウス内で収穫作業等を行うため、体への負担が大きく、熱中症のおそれがあります。

農業改良普及課は、一部の農家が使用していた「空調服」について、特徴や農家から聞きとった注意点・工夫をまとめた資料を作り、春先から各部会の現地研修会で利用を提案してきました。現地研修会参加者のうち数名が購入しており、「涼しい。汗でベトつかず快適。買って正解！」と好評で、利用者は拡大中です。

農業改良普及課は、今後も省力化や軽労化、熱中症対策等、農作業改善への取り組みを支援します。

水稻採種圃の圃場審査を実施



農業改良普及課は、7月9日及び19日に稲生採種組合の水稻採種圃79筆(909a)の圃場審査を、生産者9戸の立ち会いのもと実施しました。当日は看板や異品種の有無、特定病害やその他の病害の発生状況等を審査し、全ての圃場で看板が設置され、特定病害の発生もありませんでした。ほとんどの圃場で生育もよく揃っており、除草や防除等も行われていましたが、肥料ムラの影響と思われる生育ムラや一部倒伏があり、別刈りを指導しました。罹病程度は低いものの、いもち病や紋枯病の発生も見られました。審査結果の報告に、生産者は納得の様子で、収穫に向けて気持ちを新たにしていました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、優良種子の生産安定に向けて支援していきます。

南国市ゴーヤ生産組合が現地検討会を開催



6月24日、南国市ゴーヤ生産組合が今年度1回目の現地検討会を開催し、生産者やJA、市場関係者ら15名が参加しました。

現地巡回では、生産者同士で生育状況等を確認し、追肥や防除作業についても情報交換が行われるなど、有意義なものとなりました。また、JAや市場担当者から出荷前半の販売状況が説明され、春先の低温により前年度よりやや少ない出荷量であることが報告されました。農業改良普及課からは、多雨低日照時期に向けて予防的な防除対策等を徹底することを周知しました。

梅雨明け以降の出荷最盛期を前に、安定生産に向け支援していきます。